

表現技法を用いて空にかかわる詩を作り、オリジナル詩集を作成することを単元のゴールとして設定しました。

第1時は、学習計画を立てる時間となります。「めあてをもつ」(計画)「何を学ぶかつかむ」(計画)場面を仕組みました。



学習計画へ

単元を貫くめあての設定に向けて話し合う生徒



生成AIでまとめた生徒の詩の印象

- ① 詩の構成を学ぶ
- ② 色々な詩を読む
- ③ 表現技法
- ④ 面白い詩の特徴

時間	学習活動
1	学習課題を設定し、学習計画を立てる。
2	表現技法について学ぶ。
3	空の詩を読み、工夫を見つける。
4	オリジナル詩集を作る。

学習計画表

【めあてをもつ】

教材との出会いの場では、「詩と聞いて思い浮かぶものは?」というアンケートを実施し、その結果を生成AIによるテキストマイニングで提示しました。続いて、教師が生成AIを用いて作成した『空』という詩を示し、自由に批評する場を設けたところ、「日記のようだ」「表現の工夫がない」といった意見が出されました。

その後、表現技法への意識が高まった段階で、「オリジナルの空の詩集をつくろう」という単元を貫くめあてを設定し、達成するために、どのように学習を進めるのか、グループや学級で話し合いました。

【何を学ぶかつかむ】

オリジナル詩集をつくるために、単元を通して「何を、どのように学ぶか」計画を立てました。教科書を見て考える生徒A、既習事項を振り返る生徒Bのように、一人一人が自分なりの学習計画を立てることができました。

その後、学級で話し合い、「表現技法を学んでから、教科書に載っている詩の工夫を探すと、自分たちの詩集づくりに生かせると思う」という意見をもとに、順序立てた学習計画を立てることができました。

教師の働きかけ

生成AIテキストマイニングを活用し、詩の表現技法にかかわる既習事項を確認させました。

生成AIが作成した詩を批評させることで、単元で何ができるようになればよいかをつかませました。

自分の学ぶべきことは何か、そのための毎時のめあては何か、グループや全体で共有する場をもちました。

学習計画を作成する際には、教科書の学習の流れを参考に考えるよう伝えました。

個人で計画を立てた後、よりよいものにするために学級で話し合うことで、この単元で何を学ぶかをつかませました。

「オリジナルの空の詩集をつくろう」というめあてを自分たちで考え、設定したことで、めあてを達成しようとする意欲的に学習に取り組もうとする姿が多く見られました。

一人一人が教科書の学習の流れを参考に、自分なりの学習計画を立て、それを持ち寄って、学級で意見を出し合いながら学級の学習計画を作成することで、この単元で「何を、どのように学ぶか」を明確にすることができました。

